



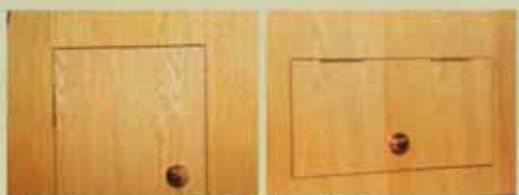
こだわりのキャンピングカー 拝見！ ムク材家具の魅力



●一枚板では重く
なってしまう扉は
薄い板に框（カマチ）
を付けて補強
する



●ホゾとミノで板
を組む。角はモー
ルを使わず削って
丸みを出す



●左は木目が合っており扉が浮き立って見えるが、
右は一体感がある。細かい部分にこだわることがで
て仕上がりの美しさを左右する

ムク材家具を多用したキャンピングカーは、一歩車内に入った瞬間から香りが違う。木目の温かみと車内全体のトーンが安らぎを持たしてくれるほか、「木工家具」としての優れた造形美も可能にする。キャンピングカーそのものの質を左右すると言っても過言ではないだろう。実際にムク材に魅了された人たちにスポットを当て、そのこだわりを聞いてみた。

キ

キャンピングカーの家具の特徴は、取り付け家具であること。気に入らないからといってカンタンに移動したり取り外しができないから、購入時のチェックの目も厳しくなる。レイアウトや使い勝手はもちろん、長く使うことを考えたり、やはり素材や質感、耐久性なども考慮して選びたいものだ。

国産モデルに使われている家具の素材を大まかに分けると、合板とムク材の2つがある。合板はベニヤなど様々な種類の薄い板を接着剤で集積したもの。強度はあるし何より安価で扱いやすいのが特徴だ。化粧板を張れば、それなりに見栄えもする。

一方、ムク材とは一本木から取ったもの。一枚板はもちろん、同素材を重ねた集成材もムク材だ。価格は張るが、耐久性にも優れる。木目を生かすことで車内全体にまとまりも出るし、年々良いツヤが出てくる。コーナーを削って自然な丸みを出すといった造形は合板では難しいが、ムクなら可能だ。思った以上に複雑な形状をしている車内では、造形に凝れる素材の方が有利だ。板と板を組むときは、クギやネジ、接着剤の前に、まずホゾやミノを彫って組む。插れに耐える堅強さもある。

また、車内全体の家具をムク材にすることで、人体へ良い効果を生むこともある。ペースとなるク

ルマはもちろん、居住部分には内装（断熱剤やトリム）を施す際に接着剤を多く使っている。合板の張り合わせや突き板で家具を仕上げた際の揮発臭（ホルムアルデヒドやトルエンなど）は、狭い車内ではかなりきつく感じる。ところが、ムク材を使っていると、木の芳香成分がこれら発揮臭を和らげてくれるのだ。

しかし現実には、国産キャンピングカーの主流は合板だ。いくらムクが良い素材だと分かっているも、価格や重量の増加（木の種類による）を考えると、それほど需要がないというのが現状。ムク材の仕入れはほとんどを輸入に頼っている。製作にも相応の手間がかかる。目下大量生産は難しいのだ。「だからここで価値がある」と語るのはカトーモーターの加藤次巳智社長だ。家具専門の職人を置いて1台1台丹念に仕上げている同社では、家具に関してはほぼワンオフ製作。扉一枚、引き出し一つにしても、必要と言われれば応じている。「こだわる人はすくなく、こだわっていますよ。キャンピングカーは決して安い買い物ではない、夢を買うことですからね。私たちもそれに十分に応えたい。価格以上の価値を感じてもらいたいです」。その言葉を聞いて、実際にユーザーに会ってみてみた。一体どんなクルマなのだろうか？

●左は合板、右はムク材。一枚板の重厚さを醸し出すムク材には、高級感のある金具もよく調和する



遊び心満載

車内はまるで からくり箱のよう



●やんちゃで人なつっこい兄弟、大地君(小学4年)と住地君(小学1年)。元々は夫人の由佳さんと「ランクル+ルーフテント」のスタイルだった

'04
フォーシーズン
鹿児島県 内山 修

空間を有効利用



●バンクベッド下部の空間を活用して収納スペースを作った。扉は自作。底は箱子状になっており、何が入っているかはすぐ分かる



●オーバーヘッドキャビネットの下にミニキャビネットを増設。一部は中が見える仕様にしてある。モノ掛けとしても使えて重宝している



●子供たちがバンクベッドから落ちたので、取り外し可能な柵を取り付けた。そこを活用して手すりも増設。温泉宿仕様のタオル掛けも大活躍



●もう一方のキャビネットは、中が見えの扉にした。下部には収納棚を増設。左側にリヤエアコンの吹き出し口を確保し、うまくデザインしている

初

めてキャンピングカーを購入したのは、'00年春の大阪キャンピングカーショーだという内山 修さん(51歳)。

きっかけは、子供たちの教育のため。「もっと全国各地を旅しているような体験をさせてやりたい」とそんな思いからキャンピングカー購入に踏み切った。

そのとき購入したのがハイラックスサーフをベースとしたカトーモーターのフォーシーズン。押し過ぎない社長の対応が良かったのでほぼ即決。ムク材を使った温もりたっぷりの家具は、手が込んでいて細かい部分まで丸みが付けられている。そんなに広くはないのに、不思議と精神的にゆったりし

た気持ちになれたという。スクエアではない独特の丸みを持ったシエルも他社にはない魅力だらたとか。このフォーシーズンには2年間乗ったが、問題もなかったわけでもない。坂道で全然馬力が出ないのだ。高速道路でとんなに頑張っても60〜80km/h。普段乗っているランドクルーザーに比べると、どうしても物足りなかった。ムク材家具は気に入っていたが、重量増加は否めない。ベース車の走りまでは考えていなかった。そんなとき、トヨタから新車種が発表された。現行ではもうおなじみ、フォーシーズンスポーツのベースであるランドクルーザープラドだ。エンジンはV6 3.4ℓ、トルクも大幅にアップし申し分ない馬力だった。ダブルキャブであることも懸案事項だったため、早速カトーモーターにプラドベースでの製作を依頼したところ、偶然にも検討中だった加藤社長と話がまとまった。

制作時には1号車の反省を踏まえ、自ら車内の図面を描いて注文した。納車後も付け足した家具は多数ある。財布は軽く車体は重くなる一方だが、自分で作り上げていくのは楽しいという。道の駅では車内を見せてほしいと行列されたこともあったとか。

子供たちのためが一転？ 現在は、まるでお父さんの秘密基地のようになっている。



機能的な木工家具

● エントランス上に斜めに取り付けられた雑誌入れは圧迫感も皆無。キッチンまわりにも細かな収納を増設。換気扇下も可動式の棚を付け、キッチンを使わないときは棚として利用する。

木の温もりをそこかしこに…



● 子供たちが寝ている間に窓を眠るので、窓枠に柵を取り付けたそう。窓を開けたいときは取り外しが可能。寝室に温かみも生まれる。



● 天井にも一枚板が装着され、車内を明るい雰囲気にする。車内は納車されたときから木の香りで、ケミカル臭は全然感じなかったとか。



● ルーフウィンドウにも木枠を装着。木枠にはボタンが付いており、就寝時はこの上に断熱のシェードを取り付けている。



● インバーターの切り替えスイッチもムク材のパネルで装飾。上の小さな穴からは点検ランプが見える。



● キッチン向いは収納庫になっている。かさばるものは上下のキャビネットに、真ん中の空間を利用して棚を増設。隠し扉を展開するとテレビ台が鏡台に変身する。お見事！



● 細部まで丸みを帯びたデザインはムク材ならではの、2年でも見事なツヤが出てきている。インテリアとしても美しく、手すりにしてもピクともしない。



● ほとんどすべての扉に自ら止め金具を装着。試乗させてもらったが、どんなに人間が揺れる地面でも、家具だけはガクツかかなかった。

車内でくつろぐためのひと工夫

● 標準のフォーシーズンでは、乗用部分のセカンドシート背面を利用しているが、操作しなくて済むように収納ボックス兼用の座席を増設。専用の板を引けばお座敷スタイルに！



● シンク上のボックスには浄水器を装備。どんな水もろ過して飲み水にできるというから、災害時も安心。



● 車体の後方が下がり気味で、左右の後輪を前輪よりも7cm外側へ出した。安定は良くなったが、まだ後方が重たい。エントランスわきの収納庫をバンク部分に移設することを検討中。



● 調理台はどこに…と思ったらこんな仕掛けになっていた！作業台兼収納ボックスとして製作してもらったという台は、きちんと蛇口部分にはまるよう凹みまで計算してある。

車内はいつも

くつろぎの プライベート空間



●友紀乃(中学3年)、友唯(中学1年)ちゃんと長男の友一朗(小学4年)君。みんなのスキーの師匠はお父さんの豊さんだ

'06
ダブルデルスタイル
大阪府 成重 豊

収納スペースには仕掛けがいっぱい



●リヤ常設ベッド下は巨大な収納庫。標準モデルは、車内側のアクセス扉ののだが、あまり使わないので引き出し収納を増設してもらった

●トイレルームはいらないが、緊急用にポータブルトイレは必要。ならば…と考へて製作してもらったのがこのクローゼット。ちゃんと掃除用具入れまで付いている



●リヤベッド下の収納庫を活用した工夫はまだある。キッチンわきのベッドマットをめくると、ゴミ箱が収まるスペースが現われる



●ゴミ箱の反対側のベッド下にはカセットガス置き場がある。ガスボンベを頻りに交換しなくて済むように5本セット用

冬は家族でスキーへ。自転車を載せて走りに出掛けたり、カーゴトレーラーに125ccのスクーターを載せてけん引、旅先の足に活用したりもする。

3台乗り継いでいるが、カトーモーターには毎回要望を伝えていく。ときにはスタッフを泊めて意見を聞いたりもした。それでも多少の相違は生じるもの。今回は製作現場に足を運んだ。欲しかった常設ベッドタイプに、自分のこだわりが詰まった1台に仕上がった。

'97 年にハイエースベースのハイルーフバンコン・オールドライン、'99年にストラーダベースのフォーシーズンに乗り、'06年に200系ハイエースベースのDDに乗り換えたという成重 豊さん。カトーモーター歴は長く、やはりムク材家具に魅せられた1人だ。木の種類はナラ。木目の視覚的な落ち着きは何にも代えがたく、はっきりとした匂いがあるわけではないが、何となく感覚としてある木の香りも好きだという。

そして最もくつろげるのは夜。外が暗くなると、車内は光と木の鏡演により浮き立ち、最も静かで落ち着ける自分だけの空間となる。家に置いてあるときも、しょっちゅう車内でお酒を飲んだり本を読んだりしているという。朝起きたときは、家かクルマか分からないことがよくあるとか…。



●電子レンジの下にティッシュボックスを装着。これもカトモーターの製作。小物も家具と同素材にすると車内がすっきり見える



●ビラーを残したまま車幅を拡大しているDD。上部の拡大スペースを利用して格子状のオシャレなデザインの収納ボックスを装備



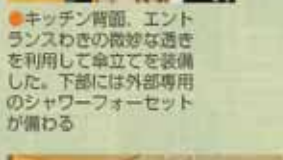
●4年前に亡くなった奥さんとの思い出がいっぱい詰まったフォーシーズンを描いたもの。車内の大切なインテリアになっている



●キッチン背部、エントランスわきの微妙な透きを利用して傘立てを装備した。下部には外部専用のシャワーフォーセットが備わる



●出先で遊ぶとき、家族との連絡に使う携帯トランシーバー入れと、充電機のスイッチパネルもムク材で製作してもらった



●リヤ常設ベッドでもテレビが見られるよう、モニターを設置。細かい部分だが、リモコン台やモニターの台座も製作してもらった



●キッチン背部、エントランスわきの微妙な透きを利用して傘立てを装備した。下部には外部専用のシャワーフォーセットが備わる

デザインと機能が融合



●車内のスペースを有効的に使うため、テーブルは折り畳み式。カップは北海道で購入したもの。食器もムク材でそろえたいかなという



●ベッド側に小さい作業台が現われる。調理中にあると便利。経験から冷蔵庫は大きなモノにしたかったが、手違いで2つになってしまった

それぞれの素材特性

ムク材



ムク材は、一般的には木目が細かく均一なほど強度があるとされるが、木の種類によっては木目の大きな板でも強度があり、あえてその目を生かすこともある。強度や重さ別に家具のどの部分に使うのが適切か、そうしたことも計算される。またムク材家具は、経年変化によって強度が増す。適切な手入れをすれば一生ものとして使えるのが特徴だ。表面がオイルワックスなどで塗装されている場合、水には強いが熱には弱い。大きなキズは難しいが、ちょっとしたキズやシミはサンドペーパーで軽くこすりワックスで仕上げると良い。

合板



薄い板（ベニヤ）の繊維方向を交互に重ねて張り付けているのが合板。ムク材に比べて安価で、反らない、割れない、強度があるのが利点。重ねる枚数は奇数で、厚さも大きさも選択肢の幅が広い。また、ベニヤの表面に薄くスライスした仕上げ材を張ると、見栄えのする板＝突き板となる。スギやナラ材を張ってムク材のように見せることも可能だ。接着剤に含まれるホルムアルデヒドが心配されるが、含有量の少ないタイプもある。

キリ

●収納したり反ったりといった狂いが少ない。湿度に応じて木の目が詰まったり開いたりするので、タンスなどに向く。熱にも強い

ナラ

●家具で多く使われるのはミズナラ。年輪がはっきりしていて見栄えがいいので、家具でも面積の大きい部分に使われる。強度が高い

チーク

●硬く強度が高い。天然の油成分によりツヤがある。水に強く、薄くスライスして表面材にも用いられる。収縮率が低く狂いが少ない

パイン

●安価に一般的に流通しているのは節が多く出ているもの。時間が経つと白っぽい黄色から艶やかなアメ色に変わる

ファルカタ集成材

●キリに似て白くキメの細かい素材。非常に軽い。クギ打ちには適しており加工しやすいが、樹木などにするには強度や耐久性が低い

メルクシパイン集成材

●パイン材と同じくらいの強度をもつ。ムク材の組み合わせをもたせた集成材で、組み合わせた木目が柄となる

ラワン合板

●DIYショップなどでおなじみの素材。表面が粗くガサガサした手触り。軽くて柔らかい素材なので加工はしやすい

メラミン材

●メラミン樹脂板を張った合板。熱や水に強く汚れにくい。硬く、キズが付きにくいのでテーブルなどの表面材として使われる